

大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 2759 号 2015.12.9 発行

「それいゆ田井島」箸袋グランプリ 障がい者施設商品コンクール



読売新聞 2015年12月08日
 グランプリの箸袋(左)と最優秀賞のジャムとランチョンマット

障害者施設の商品力向上などを目的とした「熊本市障がい者施設商品コンクール」で、「それいゆ田井島」(熊本市南区・早咲京子代表)など3施設の商品が最優秀賞に選ばれた。各施設の商品は、熊本市中央区南坪井町の「UMU(う〜む)」で販売している。

コンクールは2013年、施設の売上げを伸ばして就労支援につなげようと始まった。市内にある施設か、市民が2人以上通う施設が対象で、今年度は17施設から32点が出品された。アート、食品、手工芸品の3部門で最優秀賞を選び、さらに最優秀賞の中からグランプリを決定する。

グランプリに輝いたアート部門・最優秀賞の「それいゆ田井島」の「箸袋」は、紅白の和紙を貼り合わせ、リボンの水引や、花形の和紙を添えた。色の組み合わせを変えるなどして10種類以上の柄を用意した。

製品の完成度に加え、施設利用者が全工程に関わっていることなどが評価されたという。紙の裁断作業に携わる荒木一也さん(58)は「まさかグランプリを受賞できるとは思っていなかった。今後の励みになります」と話していた。

食品部門の最優秀賞は、「るびなす」(玉東町)の「ぶどうジャム」。玉名市のブドウ農家で栽培したベリーなどを使用し、施設利用者が花摘みや袋かけに加わった。手作業で種を取り除くなど手間を掛けて、高級感のある味に仕上げた。

手工芸品部門は、明和学園(熊本市南区)の「藍染めMy箸ランチョンマット」が最優秀賞に選ばれた。開園当初から取り組んでいた藍染めの技術を生かし、四隅の一部を折り曲げ、箸を差し込んで持ち運べるように工夫した。

障害者らが演じる「鹿の劇場」 体験交えコミカルに 奈良 / 奈良



毎日新聞 2015年12月7日
 ロミオとジュリエットが会える舞踏会の場面を演じる劇団員=奈良市の奈良女子大で、日向梓撮影

障害者らが音楽や踊りなどで舞台を構成する「鹿の劇場」(県主催)が6日、奈良市北魚屋東町の奈良女子大であった。約80人が、鳥取県の劇団「じゆう劇場」の公演『ロミオとジュリエット』から生まれたものを鑑賞した。

障害の有無に関係なくアートを楽しむ目的で、

2011年度から毎年県内で開催されている「HAPPY SPOT NARA」の一環。「じゅう劇場」の劇団員やボランティア約30人うち9人が障害者という。

シェークスピアの悲劇「ロミオとジュリエット」を題材にした公演で、出演者の体験などに基づいた場面をつなぎ合わせ、歌やダンスを披露。出演者が自らの恋愛体験を語るコミカルな場面もあり、客席からは笑いが起こっていた。

奈良市の団体職員、渡辺弥生さん(26)は「とても面白かった」と話していた。【日向梓】

身近な人「働く風景」 障害者団体主催が写真展 愛媛新聞 2015年12月8日



それぞれの分野で働く人々の姿が並ぶ写真展

それぞれの仕事に汗を流す人々の姿を捉えた「働く風景」写真展が、愛媛県宇和島市吉田町東小路の吉田公民館で開かれている。県内外40人の計82点が、来場者の目を楽しませている。13日まで。

障害のある人もない人も、写真を通じて共に楽しみ、人との輪を広げようと、障害者とその家族が集う地元の団体「オープンスペースきゃっち」(山本和美代表)が2

011年から開き5回目。

会場には、農作業にいそしむ人々やちょうちん作りに励む職人、芋掘りをする子どもの姿を切り取った作品が並ぶ。開場は午前9時～午後9時(最終日は午後3時まで)。2016年2月1～14日には、宇和島市住吉町1丁目の市総合福祉センターでも開く予定。

障害者アートに「多くの関心を」 足立区役所ですすまで 東京新聞 2015年12月8日



貼り絵などの作品が並ぶ「障がい者アート展」=足立区役所で

足立区内の障害者が丹精を込めた作品を紹介する「第35回障がい者アート展」(区など主催)が区役所1階で開かれている。

障害者週間(12月3～9日)に合わせて、福祉施設や作業所の利用者、特別支援学校の生徒らの活動成果の発表の場として開催している。約60の団

体・個人が手掛けた絵画や貼り絵、手芸品、陶芸品、クリスマス用の飾り、編み物などを展示。区の担当者は「多くの方に関心を持ってほしい」と来場を呼び掛けている。

9日まで(午前9時～午後5時)。問い合わせは、区障がい福祉センター=電03(5681)0132=へ。(松尾博史)

高次脳機能障害の男性が自叙伝 障害の苦悩つづる 神戸新聞 2015年12月8日



4月に尼崎JR脱線事故の追悼コンサートを仲間と企画した小林春彦さん(中央)=三田学園(2015年4月)

三田学園中・高校出身で、高次脳機能障害がある小林春彦さん(28)=東京都=がこのほど、自叙伝「18歳のビッグバン 見えない障害を抱えて生きるということ」を出版した。ある日突然、障害者となった思いを赤裸々に告白。小林さんは「障害を知らない人に知ってもらい、同じ悩みを持つ人を勇気付けられれば」と訴えている。(村上晃宏)

小林さんは、中学・高校で吹奏楽部に所属し、全国大会に出場するなど活躍。高校卒業翌月の尼崎JR脱線事故で、他校の音楽仲間が亡くなった。東京大学を目指して浪人して



いた小林さんは吹奏楽仲間を誘い、合同葬で追悼演奏を行った。目に見えない障害を抱えた人生をつづった小林晴彦さんの自叙伝

演奏の3日後、大阪市内で突然倒れた。病名は「右中大脳動脈閉塞（へいそく）症・広範囲脳梗塞」。親友の死というストレスが主な原因とみられた。「『なんで俺が…』という気持ちだった」と振り返る。

懸命のリハビリで、3カ月後には退院。しかし、本当の試練はその後だった。遠近感や立体感などの知覚が失われ、姉と妹を判別できないことも。それでも外見は健常者と同じ。自身も周囲も症状を理解できず、つらさばかりが募った。

高次脳機能障害という診断名が付いたのは2年後の2007年。リハビリに励むものの、新しい症状が次々と判明した。

「相貌・地誌・視覚失認」。人の顔も、今自分がどこにいるのかも分からない。「失音楽」。音の高低やリズムが分からない。「半側空間無視」。体の左側にある空間を意識できない…。

同じ頃、障害や病気のある小中高校生・大学生の進学や就労支援をする東大主催の「D O - I T J a p a n」プロジェクトに第1期生として参加。障害者らと触れ合い、小林さんも「障害を受け入れよう」との覚悟が生まれたという。白杖（はくじょう）を持ち、左手に手袋をするようになった。

現在は東大で事務の仕事に就いている。3年前から母校・三田学園で講演を行い、今年4月には三田市内で脱線事故の犠牲者追悼コンサートを開催した。小林さんは「障害を抱えてから『人に頼る』ことの大切さを覚えた」と話している。

引きこもりや障害者「社会で活躍を」、塾経営者が就労支援 大牟田市に施設オープン【福岡県】

西日本新聞 2015年12月08日
就労移行支援事業所「ティオ新大牟田」の開所式で、

並んで立って紹介されるスタッフ



開所式の
後、施設
内の個別
ブースを
案内する
スタッフ



大牟田市に本部を置く学習塾「有明塾」社長の倉岡清児さん（43）が、障害者や引きこもりの人たちなどを対象にした就労支援施設を市内に開設した。県障害者福祉課によると、塾の関係者が同様の施設を運営するのは

珍しいという。

倉岡さんは、進学や就職後の人間関係で悩み、大牟田に帰郷し引きこもった塾の卒業生数人から相談を受け、社会復帰を助けたいと就労支援施設を企画。9月に施設の運営会社「希春（きばる）」を設立、社長に就任した。

施設の名称は「ティオ新大牟田」。利用者、施設、企業という三者を結び付けようと「T h r e e I n t o O n e」の頭文字を取った。九州新幹線新大牟田駅に近い同市岩本新町のビルに入居し、延べ床面積65平方メートル。パソコン付きの個別ブースなどを備えている。

利用対象は精神障害者手帳か医師の診断書があり、就労に向けた訓練を希望する18歳

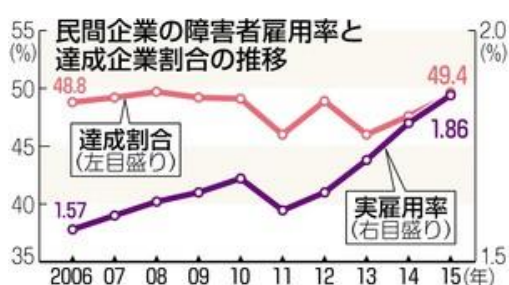
以上65歳未満の人。スタッフ5人が常駐し、パソコンや簿記などの資格取得を支援し、就職先の紹介や相談に応じる。利用期間は2年。一度に最大20人が利用でき、既に11人が利用登録している。運営費は施設からの請求額を国や地方公共団体が負担する仕組みとなっており、施設利用料は原則無料で、昼食やバス送迎を受けられる。ただし、利用者側の収入によっては負担を求めることがある。

今月1日の開所式で倉岡社長は「頑張れる人が、ちょっとしたきっかけで働かないのはもったいない。社会で再び活躍の場を持てるようにしたい」と話した。ティオ新大牟田＝0944（85）8715。

県内企業の障害者雇用 1万人超

中日新聞 2015年12月8日

◆3年連続で最高更新



静岡労働局がまとめた県内民間企業の障害者雇用状況によると、六月一日現在の雇用者数は前年を4.5%上回る一〇〇二一・五人と一九七七年の調査開始以来、初めて一万人を超えた。従業員に占める障害者の割合（実雇用率）は0.06ポイント増の1.86%で、ともに三年連続で過去最高を更新した。ただ実雇用率は都道府県別では三十一位で、全国平均（1.88%）を下回っている。

障害者の雇用義務がある従業員五十人以上の二千六百三十社を対象に調べた。週三十時間以上働く常用雇用者を一人、二十～三十時間は〇・五人、重度障害者はそれぞれ二倍で算定している。

法定雇用率の2.0%を達成した企業は1.8ポイント上回る49.4%だった。ピークは一九九八年の55%で、翌年に法定雇用率が1.6%から1.8%に引き上げられて以降、この水準には達していない。

内訳は身体障害が66.1%、知的障害が27.6%、精神障害が6.3%だった。身体、知的障害の前年比増加率は1.0%未満だったが、精神障害は27.3%と大幅に伸びた。

産業別の実雇用率は、製造業の金属製品が3.13%と最も高く、同じ製造業の木材・家具が1.12%と最も低かった。続いて教育・学習支援業の1.13%が低かった。

公的機関では、県が2.48%、市町なども2.37%で法定雇用率2.3%を達成している。教育委員会は0.01ポイント増の2.03%にとどまり、法定雇用率（2.2%）を下回った。（河野貴子）

長野) 絵本贈ってサンタ気分 病院の子どもへ、参加募る 朝日新聞 2015年12月8日



クリスマスの贈り物に選ばれた本には、贈り主のメッセージが添えられている＝松本市沢村3丁目

養護施設や病院で暮らしていて、クリスマスを自宅で過ごせない子どもに絵本を贈ってみませんか。松本市の団体「サンタ・プロジェクト・まつもと」が、近隣6書店の協力を得て、市民にサンタクロースになってもらう活動を企画。13日まで、広く参加を呼びかけている。

サンタ・プロジェクトは、かつて同市の教会で牧師だった大沢秀夫氏が、新潟県新発田市で始めた試

み。趣旨に賛同した人たちの手で、新潟市など約10カ所で実施されているという。松本市では3年前から大沢氏の友人らが続けている。

今年は4日から参加を募っている。安曇野市の県立こども病院や松本市の信州大病院小児科病棟、情緒障害児短期治療施設「県松本あさひ学園」、松本赤十字乳児院、松本児童園に入院・入所中の約200人の子どもに贈る予定だ。

市民サンタになる方法はこうだ。

協力書店に足を運び、本を受け取る子のカードを手取る。カードには1枚ずつ「2歳女の子 おままごと大好き」「小2男の子 恐竜」などと、本人の関心事が書かれており、その子が喜びそうな本を選び購入。このとき、匿名で手書きのメッセージカードを添えてあげるだけだ。

今年の協力店は、松本市の「ちいさいおうち書店」「TSUTAYA北松本店」「宮脇書店松本店」「改造社書店松本駅店」「たつこの書店」、安曇野市の「平安堂あづみ野店」の6店。

昨年は計277冊の本を施設に届けた。ちいさなおうち書店の越高令子副店長によると、市民サンタの中には、大人だけでなく、お小遣いの入った貯金箱を持参する小学生の兄弟もいた。相手の子を想像しながら本を選び、心を込めて手紙を書く姿が見られたという。

同店で4日に寄せられた本には「この本をよんで、すてきなおかしを作ってね」などと書かれたカードが添えられていた。

越高さんは「親と別れて暮らす施設の子の中には、自分のためにプレゼントを選んでくれた人がいると知って、感激して泣いたり、大喜びしたりした子もいた。笑顔いっぱいの子を1人でも増やしたい」と話した。

問い合わせは、事務局のNPO法人ライフデザインセンター（0263・46・2020）へ。（佐藤仁彦）



資産に応じた医療負担、16年末までに結論 改革工程表＝諮問会議

朝日新聞 2015年12月7日



12月7日、政府の経済財政諮問会議では、経済・財政再生の各改革項目について目標値期限や目標数値が提示された。金融資産を考慮に入れた負担の仕組みを16年末までに結論を得て、17年の法改正を目指すほか、高所得者の老齢基礎年金支給停止も20年度までに制度改革を目指すとした。写真は都内で2009年10年撮影（2015年 ロイター/Yuriko Nakao）

〔東京 7日 ロイター〕 - 7日開催した政府の経済財政諮問会議では、経済・財政再生の各改革項目について目標値期限や目標数値が提示された。

金融資産を考慮に入れた負担の仕組みを16年末までに結論を得て、17年の法改正を目指すほか、高所得者の老齢基礎年金支給停止も20年度までに制度改革を目指すとした。病院の機能分化を促すため、16年度末までに地域医療構想をすべての都道府県が策定することなども掲げた。

今回の工程表は、歳出削減を目指してこれまで社会保険分野、社会資本整備、教育、その他幅広い検討項目について時期や制度改革を議論してきた結果、目標時期や目標値を掲げたもの。

社会保障分野では、16年度末までに医療費適正計画策定を前倒して策定した自治体がおおむね半数になることを掲げ、一人当たり医療費の地域差の半減を目指す。

重複受診などを避けるため、かかりつけ医以外を受診する場合の定額負担の導入を16年末までに結論を得て、大病院受診者のうち紹介状なしのケースを60%以下とすることを掲げる。

保険組合が加入者自身の健康医療情報を情報通信技術を活用して提供することを普及させ、22年度までに糖尿病有病者の増加を抑制して、1000万人に抑えることを目指すほか、健康寿命を20年までに1歳以上延伸することを掲げた。

社会資本整備分野では、公共施設の管理やストック適正化をめざし、16年度末までに100%の地方公共団体で、公共施設等管理計画を策定することを掲げる。公的施設の民間委託などいわゆるPPP（パブリック・プライベート・パートナーシップ）／PFI（民間資本を活用した社会資本整備）手法の導入を優先的に検討する仕組みを構築した省庁や地方自治体（人口20万以上）の数を16年度末までに100%とすることも掲げた。
(中川泉)

入居者虐待、53施設81件 転落死事件の系列ホームで 中村靖三郎、蔭西晴子

朝日新聞 2015年12月8日

川崎市幸区の有料老人ホームで入居者3人が相次ぎ転落死した問題に絡み、施設運営会社の親会社「メッセージ」（岡山県）のグループ施設で、職員による入所者への虐待が2013年度以降で延べ81件あったことがわかった。同社が7日公表した第三者委員会の報告書で指摘された。

第三者委は弁護士らで構成。メ社と子会社「積和サポートシステム」（東京都中央区）が運営する有料老人ホームとサービス付き高齢者向け住宅の計275施設を対象に、13年4月～15年11月までの虐待の状況をアンケートした。転落死や窃盗などがあった川崎市の施設など、すでに問題が発覚した6施設は除いた。

その結果、延べ53施設で虐待があった。最多は「著しい暴言や心理的外傷を与える言動」の40件。「高齢者から不当に財産上の利益を得る」が17件、「身体に暴行」が16件、「衰弱させるような著しい減食、長時間の放置」などが7件、わいせつ行為が1件だった。

補正予算案 3万円給付1250万人に 低所得者対策 毎日新聞 2015年12月8日

政府が18日に閣議決定を予定する2015年度補正予算案の全容が7日、分かった。総額は約3.3兆円。目玉となる低所得の年金受給者に対する給付金案は、約1250万人を対象に来春以降、1人当たり3万円を支給。給付総額は約3900億円（一部は16年度当初予算案に計上）となる。

給付金の対象は、65歳以上の高齢者のうち年金などの収入が年155万円程度までの約1100万人（生活保護受給世帯を除く）と、65歳未満であっても障害基礎年金と遺族基礎年金を受給する約150万人。いずれも住民税の非課税世帯に当たる。15年度補正予算案には65歳以上への給付分約3400億円や事務費約250億円を盛り込む。給付によって回復が鈍い個人消費を喚起し、景気底上げを図る狙い。

このほか補正予算案には、安倍晋三首相が打ち出した「1億総活躍社会」実現に向け、保育所整備に約500億円、介護施設整備に約900億円を計上する。環太平洋パートナーシップ協定（TPP）発効に備えた農業対策には約3000億円、河川整備などの災害対策にも約5000億円を盛り込む。

今回の補正では、国の借金である国債の新規発行額を予定より約4500億円減らす。財源は今年度税収の上ぶれ分約1.9兆円や、14年度予算の使い残し約2.2兆円を充

てる。【宮島寛】

両陛下 障害者スポーツ用制作会社を視察 千葉 毎日新聞 2015年12月8日

天皇、皇后両陛下は8日、競技用車いすなどを制作している千葉市若葉区のオーエックスエンジニアリングを視察された。障害者週間にちなみ、毎年障害者関連施設を訪問している一環。両陛下は、マラソンなどに使われる「レーサー」と呼ばれる車いす製造の社員らに「選手に合わせて作るのですか」「大量生産というわけにはいかないでしょうね」などと話しかけながら約30分間見て回った。

同社は、1988年創業。一般用だけでなく、障害者スポーツ用の車いすを開発・製造しており、パラリンピックなどで活躍する多くのアスリートにも提供している。

両陛下はその後、佐倉市の国立歴史民俗博物館を訪れ、明治維新の立役者の一人の大久保利通関連の資料や、満州事変から1970年代の日本の移り変わりを展示している「現代」のコーナーをご覧になった。

高梁で障害者が手掛けた製品展示 手作りクッキーや農産物を販売



山陽新聞 2015年12月08日
障害者が手掛けた製品を展示、販売する「たかはしのはたらくマーケット2015」

障害者福祉施設の製品を展示、販売する「たかはしのはたらくマーケット2015」が8日、高梁市役所市民ホールで始まった。9日まで。

市内の知的、精神、身体の不9障害者施設と県健康の森学園支援学校（新見市哲多町大野）が参加。松山ワークセンター（高梁市落合町阿部）の手作りクッキー、たかはし福祉作業所（川面町）の利用者が手掛けた花器や小物入れといった木工製品のほか、白菜や大根などの農産物も並び、来場者が手にとっては確かめていた。

市のほか、白菜や大根などの農産物も並び、来場者が手にとっては確かめていた。

市と障害者団体、施設などでつくる市自立支援協議会が初めて企画。上原増子会長は「製品の売り上げを伸ばして障害者への還元を増やし、自立を後押ししたい。丁寧に作られたものばかりなのでぜひ見に来てほしい」と話していた。



ここにいるよ

ダウン症があるほぐたち・わたしたち

ほぐたちは、ほぐち、わたし、みんな、ここにいます。ほぐち、わたし、みんな、ここにいます。ほぐち、わたし、みんな、ここにいます。

3月21日は国際で認定した「世界ダウン症の日」

世界ダウン症の日（3月21日）をきっかけに、

3月はJDSが定めた「ダウン症啓蒙月間」



3月21日「世界ダウン症の日」をきっかけに
どうかダウン症への理解が深まりますように

JDS 日本ダウン症協会
TEL: 03-6887-0024
FAX: 03-6887-0025
E-MAIL: jds@jds.or.jp
www.jds.or.jp

ダウン症ある生活、大規模調査 新出生前診断で厚労省 共同通信 2015年12月8日

日本ダウン症協会のポスター（同協会提供）
2013年に臨床研究として導入された新出生前診断をめぐり、厚生労働省研究班は8日までに、検査対象疾患の一つとなっている、ダウン症がある人の生活の実情を把握する大規模調査を始めた。本人や親らを対象に、就学や就労の状況、どんなことに幸せを感じているかなどの質問に回答してもらおう。

調査結果は出生前診断を希望する夫婦への遺伝カウンセリングなどの場で活用してもらい、ダ

ウン症がある子どもがどう育っていくのか、こういった支援があるのかなど具体的な情報提供につなげたい考えだ。ダウン症の本人を対象に含む大規模調査は珍しい。

研究班は日本ダウン症協会の協力を得た。

社説：発達障害の相談 一層親身なサポートを

秋田魁新報 2015年12月8日

発達障害に関する相談が、本県を含め全国で増加している。2005年の発達障害者支援法施行を機に、障害の特徴が徐々に知られるようになった結果とみられる。

発達障害は、コミュニケーションなどに支障が生じる自閉症スペクトラム障害（ASD）、落ち着きのなさや不注意な行動が顕著な注意欠陥多動性障害（ADHD）、知的発達には問題がないのに読み書きや計算に難点が見られる学習障害（LD）などの総称だ。支援法の施行以前は障害とは認められず、支援の手が及んでいなかった。

幼児のうちに親や保育士らが気付いて医師の診断を受け、改善につながる例がある一方、高校や大学に入ってから、あるいは就職してから本人が初めて気付く例もある。いずれの障害も個人差が大きく、対処の仕方が一律ではない難しさがある。

だが周囲の理解を得た上で、障害の程度や特徴に応じて教育や福祉、就労面で適切なサポートを受ければ、少しずつであれ改善され、道が開けていく可能性は高い。まず専門機関に相談することが大切だ。

支援法の施行に伴い、各都道府県や政令指定都市に相談窓口が順次設置された。厚生労働省のまとめによると、全国の相談者数は年々増えており、14年度は05年度の4・3倍の延べ約6万8千人に上った。

本県では、07年10月に開設された県発達障害者支援センター「ふきのとう秋田」（秋田市上北手、あきた総合支援エリア内）で相談に応じている。14年度の相談者数は08年度の2倍近くの延べ406人に上った。19?39歳の相談者が47%（全国平均37%）を占め、社会人の比率が高いのが特徴だ。相談件数は2千件を超えている。

相談内容は、以前は学校生活に関するものが多かったが、最近は「就職したものの、周囲とうまくやっていけず困っている」「上司からの指示が重なると混乱してしまう」など仕事に関するものが目立つという。

上司や同僚が発達障害のことをよく知らないと、「自分勝手」「怠けている」などと勘違いされがちだ。企業側も発達障害の特徴をよく理解し、適切に対応する必要がある。

ふきのとう秋田の相談員は現在2人。面接や電話による相談が急増しているため、応じ切れず、相談者が順番待ちをしているのが実情だ。相談者の悩みにじっくり耳を傾けることも欠かせないだけに、設置者の県側は増員など態勢の充実を図るべきだろう。一人一人の相談を改善へとつなげていくには、ハローワークや市町村の福祉担当部署などとの連携が鍵を握る。

もちろん社会全体としても、発達障害をその人の特質と捉え、できるサポートを心掛けることが大切だ。発達障害に悩む人にとって、学校や職場が居心地の悪い場所とならないようにしたい。

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も



大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行